

リスニング教材を用いたアクティブ・ラーニングによる
英語4技能力育成活動

佐藤 則子

東北公益文科大学総合研究論集第35号別冊 抜刷

2019年3月10日発行

研究ノート

リスニング教材を用いたアクティブ・ラーニングによる 英語4技能力育成活動

佐藤 則子

要旨

本稿はTOEICリスニング問題を単なる資格試験問題として扱うのではなく、英語コミュニケーション能力を高める教材として、いかに適しているか、またその活動を紹介する。TOEICの問題を解いて、解答、解説を聞いて終わりという受け身の授業ではなく、アクティブ・ラーニングの考えに基づき、ペアワーク、グループ活動を取り入れた受講者中心の活動内容をまとめた。またTOEICリスニングはアメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダの4ヶ国の英語でバランスよく出題されており、TOEIC学習を通して様々な英語にふれ、英語の多様性のみならず、その英語を話す人々、暮らし、文化、歴史にも興味をもち、世界に目を向けるきっかけとなり得る教材である。「TOEICを教える」のではなく、「TOEICで教える」指導案を考え実践している。

1. はじめに

急速に進むグローバル化の中、日本人の英語コミュニケーション能力の育成が強く望まれ、日本の英語教育は大きな過渡期を迎えている。文部科学省(2013)は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を策定し、小、中、高等学校における英語教育全体の在り方を示した。それに続く「英語教育の在り方に関する有識者会議報告(概要)」(文部科学省, 2014)によると、改革を要する背景として、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であり、アジアでトップの英語力を目指すべきだと述べている。

このようなグローバル化の中、多くの企業では生き残りをかけて採用の際にTOEIC(Listening & Reading)の点数を参考にし、また社内の昇進、海外赴任の選抜にも利用している。一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会(2013)の「上場企業における英語活用実態調査」によると企業の75%が

社内で英語を使用、60%がTOEIC（Listening & Reading）の結果を利用し、28.5%の企業が新入社員の採用試験で英語テストを実施している。また、同協会の「TOEIC® Programの理念—TOEIC® Programの歴史」（一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会，2018）によると、2017年度では個人による受験に加え、約3,600の企業、団体、学校が採用し、約250万人が日本で受験している。さらに同協会による2016年のTOEIC Tests活用調査の結果、入学試験として活用している全国の大学、短期大学、高等専門学校は580校であり、単位認定活用校は501校であった。この数字から高校生が推薦入試のため、大学生は大学の単位認定、就職活動のためTOEIC Testsを受験していることがわかる。本学でも積極的に海外留学を学生に勧めており、TOEIC550点で留学費用の3分の2以下、500点で2分の1以下の留学費用の援助を行っている。大学の選択科目として、TOEIC中級、上級のクラスがありTOEIC対策・準備の授業を実施している。

2. TOEICの教材としての適性

TOEICは資格試験にすぎず、満点を取っても話せないなどの批判も一部あるが、TOEICのリスニング教材を使って、発信力を高めるアクティビティを取り入れることで、受講生のコミュニケーション能力を高めることができる。まず、TOEICリスニングが教材として、適していると考えられる理由として大きく2つのことを挙げたい。

第一にTOEICのリスニングは2006年からアメリカ英語に加え、イギリス、オーストラリア、カナダ、計4ヶ国の英語を扱っている。日本の英語教育現場ではALTが世界各地から採用されてはいるが、アメリカの標準英語が教材として多く使われ、教員自身もアメリカ英語に慣れ親しんでいる傾向がある。しかし、英語を学ぶということはアメリカ人のように話すことでも、アメリカ人ように振る舞うことでもない。おそらく小、中、高等学校でアメリカ英語以外に触れる機会はそれほど多くないと思える。しかし、今後ますますグローバル化が進むのであれば、日本人が英語を話す相手は、アメリカ英語を話す人たちだけではない。また、TOEICが2020年度からの現在の大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストの民間英語資格・検定試験に他の7種類（英検、

GTEC、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBt テスト、IELTS、ケンブリッジ英語検定) と共に認められた。これらの試験のうちイギリス英語を扱っているのはIELTSとケンブリッジ英検、それ以外はアメリカ英語が中心である。TOEICは4ヶ国の英語をバランスよくリスニングに取り入れている。

本名(2003)はWorld Englishes(世界諸英語)の観点から、それぞれの国の英語はその住む人たちの文化や生活に密着し、そこから生まれた英語は彼らのアイデンティティーになっていて、そこで話される英語に優劣はなく、平等に価値があると述べている。今後さらに、日本人が国内外で、英語でコミュニケーションを取らなければならない場面が増え、特定の地域の英語だけに触れていたのでは、なかなか意志疎通がうまくいかないことが生じてくるだろう。TOEICリスニング問題を通して、アメリカ英語以外の英語にふれ、英語の多様性に気づき、視野を広げることはとても大切なことである。世界にはたくさんの国の訛りのある英語があり、日本人も自分たちの話す英語に自信をもって、世界の人たちと関わり、つながっていかうとする動機づけになるかもしれない。

TOEICが英語学習の教材として、適しているもう一つの理由は、TOEICは現実のコミュニケーションに近い内容を扱っている点である。試験対策の準備をすることで、実際の場面に即した英語力を身につけることができる。2016年5月からは問題構成が変更され、さらにリアルな状況での自然な英語を取り上げている。ビジネスだけではなく、日常生活に出てくるような語彙、表現にも数多くふれることができるため、グローバル化がさらに進んでいくこの時代に、TOEICを通して実践的な英語を学ぶことができる。

3. TOEICの内容

筆者は教材研究と自分自身の英語学習のため、年2回、3月と9月に受験することになっているが、一受験者として、より本物の英語力が求められていると受験するたびに感じる。2016年5月に改定されたTOEIC(Listening & Reading)テストはこれまでの扱う問題数、試験時間に変更はない。リスニングセクション100問・約45分間、リーディングセクション100問・75分間の計200問・2時間のマークシート方式で、スコアはリスニング、リーディングそれぞれ495点満点の計990点満点のテストである。英語力の他に情報処理能力、

タイムマネジメント力、集中力、体力、受験力が試される。本稿ではリスニング活動についての実践授業報告のため、リスニングの内容についてのみ説明させていただきます。

リスニングセクションはPart1からPart4までであるが、Part1(6問)は1枚の写真について4つの英文を聞いて、最も的確に描写しているものを選ぶもので、選択肢の英文は印刷されていない。Part2(25問)は1つの質問を聞いて、正しい応答文を3つの英文から選ぶものだが、質問も選択肢の応答文もどちらも印刷されていない。以前より、実際の英会話経験が問われる問題となっており、問題を解くだけの学習方法では高得点は望めなくなっている。Part3(39問)は2人または3人による会話を聞いて、最も適切な答えを4つの選択肢から選ぶもので、今までなかったグラフ、地図、注文書などを見て答える問題も含まれている。Part4(30問)はナレーション、アナウンスを聞いて、質問に対して、最も適切な答えを4つの選択肢から選ぶものである。グラフ、地図、注文書などを見て、答える問題が含まれている。改定後の内容はより自然なものとなり、かなりの英文を瞬時に理解し、対応するコミュニケーション能力が求められている。次にTOEICリスニングがより本物のコミュニケーションに近くなった理由を述べたい。

まず第一に、Part2がより自然な会話の流れから答えを選ぶ内容が多くなった。小手先の受験テクニックでは通用しなくなり、難しくなったと感じる。これまでは設問がYes, No を要求する疑問文なのか、疑問詞で始まっているのか、文の出だしに注意して聞くようにと指導してきた。しかし、改定後は会話を直に体験する機会を増やすことで、会話の流れが推測できるようになる問題が増えてきた。例えば、次のような問題である (Educational Testing Service ,2016, p.15)。

Martin, are you driving to the client meeting?

- (A) Oh, would you like a ride?
- (B) Nice to meet you, too.
- (C) I thought it went well!

「打ち合わせには車で行くのか」の問いに、単純にYes, Noで答えるのではなく、相手の気持ちを察し、自分の車に乗りたいか尋ねている (A) が答えと

なる。問題文を聞いた瞬間に状況を頭の中でイメージし、応答文を推測しなければならない。このような会話の場面はよく起こり得ることで、自然な会話の流れとなっている。英語で実際に話す機会を意識的に多くもち、また洋画や海外ドラマを見て、会話がどのように展開されるのかを予想しながら疑似体験することがより必要となってきた。

次に会話をしていて、即座に返答に困るようなときに、沈黙を避けるために uh, um, let me see, well のような、つなぎことばを使うことが多いが、TOEIC でもよく見受けられる。日本人は沈黙に寛容である傾向があるが、英語を話す場面では沈黙が会話のキャッチボールを損なってしまうことが多い。何と言ってよいのかわからないとき、Well, let me see…と 言うだけでも、会話はつながる。

また、中学、高校の教科書ではあまり見受けられない不完全な英文、言葉の言い換えが自然に会話に出てくる。実際の会話経験がないと、教科書のような完璧な英語を話さなければならないと思いがちで、話すのが苦手と感じてしまう学習者もいる。TOEIC 試験問題の中で、そういった英文にふれることは学習者のスピーキングに対する抵抗感をやわらげる助けになるのではないだろうか。

最後に、新 TOEIC テストでは会話が3人の場合もあり、さらにリアリティーがあるものになった。登場人物の言葉に隠された意図を正確に理解することも必要となってきた。話し手の発話を文字通り解釈するのではなく、文脈全体から考えなければ正答に結びつかない傾向がある。TOEIC 学習を通じて、英語でのコミュニケーションの仕方を学ぶことができる。

4. 実践報告

筆者は春学期にクォーター科目として TOEIC 中級のクラスを受け持っている。クラスの受講生の数はその年によって異なるが、2年次からの国際教養コースの学生を中心に10名~20名くらいである。クラスの目標点数は500点以上で、ペアワークやグループワークを取り入れて、受講生中心のアクティブな授業を目指している。TOEIC 学習をきっかけに、自律した英語学習者として学び続けて行って欲しいと願っている。学習者が能動的に活動することで、学

習効果が高まるという Edgar Dale (1946) Dale's cone of Experience の考えが様々な分野で広く取り入れられてきたが、この考えによると、最も記憶定着率が高いのは他の人に教えるが90%とあり、次に言って書く70%、見て聞く50%、見る30%、聞く20%、読む10%の順となっている。この数字から教員が一方的に講義をするよりも、受講生が自ら動くことで、理解が深まると考えられる。また、2012年8月の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(中央教育審議会, 2012)にはアクティブ・ラーニングの中に教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法であると記されている。積極的に受講生に活動してもらうために、授業で実際に取り組んできた内容、また4技能育成活動を次に紹介させていただきたい。

(1) 目標点獲得プラン

TOEIC受験の経験がある学生が少数のため、初回の授業ではTOEICの概要と目標設定、学習の仕方を各自に考えさせ、TOEIC学習の動機づけを高めるようにしている。最初に、4人前後のグループで、お互いに勉強の仕方を紹介し合い、クラス全体で各グループの意見を共有し合う。その後、受講者は各自いつまでに目標点数に到達するかを、下の表に記入しながら、3段階に分け期日を決め、どのような学習方法で取り組むかを考える。一気に最終目標点を目指すのではなく、スモールステップの積み重ねで徐々に得点を上げていくことで、やる気を維持できる。TOEIC学習は受験生の英語レベルで学習方法も解き方も違ってくるので、自分のレベルを知り、それに合った取り組みができるようにする狙いがある。

表1 目標点獲得プランについて

名前 _____		
必修している外国語	英語	中国語
(クラスレベル)		

英語力 英検	()	級	取得年()
TOEIC	()	点	取得年()
TOEFL	()	点	取得年()
IELTS	()		取得年()
TOEIC最終目標点数			点
受験日	年	月	
<u>目標点数到達までのプラン</u>			
1. 受験日	年	月	目標点数 () 点
(学習内容)			
2. 受験日	年	月	目標点数 () 点
(学習内容)			
3. 受験日	年	月	目標点数 () 点
(学習内容)			

(2) 授業内容確認表

授業の最後5分～10分を使い、本日の授業を振り返り、自分にとって重要と思えること、単語、表現、感想を授業内容確認表に自由にまとめ、グループで内容を紹介し合う。本日の授業の理解度をA（よくわかった）、B（まあまあわかった）、C（まったくわからなかった）で記入してもらい、確認のところに筆者がチェックして次週に返すようにしている。Cと記入した学生には、どんな点が難しいと感じたのかを尋ね、また十分説明したつもりでも、難しいのコメントがあれば、クラス全体の理解度に応じて次回の授業プランを作成するようにしている。この確認表に受講生は授業の内容について、あるいは英語学習に関する質問など様々なことを書いてくれるので、受講生一人ひとりとのコミュニケーションの手段として役立っている。特に、直接、質問するのが恥ずかしいとか、次の授業の関係で質問する時間が無いという学生はこの表で質問してくれている。一人ひとりと文面では対話することで、授業だけでは気づきにくいことも知ることができる。また、受講生は小テスト、期末試験の際に、この確認表を利用し、復習に使ってくれているようだ。

表2 授業内容確認表について

授業内容確認表 Name _____				
月/日	内容	重要ポイント、質問など	理解度	確認

(3) リスニングチェック表

授業の最終目標が自律した英語学習者であり、また大学の授業だけでは各自の目標点突破は難しいので、授業外での学習時間を増やしてもらうために、英語時間記録表を作成した。「一日のウォーミングアップは英語学習から」をモットーに、英語にふれた日、その合計時間を書いてもらい、英語を聞くことを習慣づけてもらうことが狙いである。語学学習では4技能をバランスよく学習することが理想であるが、まずは少しでも英語を日常生活に取り入れてもらう観点から記録するのはリスニングに絞った。TOEIC教材の他に、海外ドラマ、映画、洋楽、YouTubeなどの動画等、自分が聞きたい、見たいと思ったもの何でもよいことにした。予想以上に多くの学生がこの課題に取り組んでくれた。語学学習にはある程度、強制が必要である。英語にふれる動機づけになったようだ。

表3 リスニングタイム記録表について

リスニングタイム記録表 Check your listening time a day!				
Name _____ No.1				
月/日	時間	内容	感想・ポイント等	確認

(4) リスニング問題を使った活動

[Part1 アクティビティ (受講生が20名の場合)]

Part1の問題をライティング活動として、仲川(2013)がTOEIC授業における補助言語活動で紹介したアクティビティを参考に、次のようなアクティビティを実施した。

- ① 各自がテキストの2つの異なる写真を見ながら、1文だけ写真に合う正しい内容で、3つは写真とは異なる3つの英文を作成する。
- ② 座席ごとに英語で1~10で自分の順番を英語で言う。自分と同じ数字の受講生とペアになる。
- ③じゃんけんで勝った方が先に、作成した問題の選択肢を読みあげ、負けた方はテキストの写真を見ながら、正しいと思う選択肢を選ぶ。
- ④ 問題作成者はパートナーが選んだ答えをチェックする。
- ⑤ 今度はじゃんけんに負けた方が、勝った方に、自分の英文を読み上げ、正しいものを選んでもらう。

このアクティビティを導入した時、新鮮で楽しいという声が多かった。自分で好きなように選択肢を作るという作業は難しいようだが、手応えのある活動のようで好評であった。中には実際の試験には出てこないような独創的な面白い選択肢をつくる受講生もいて、パートナーとコミュニケーションを取りながら、ゲーム感覚で楽しめたようだ。

[Part2 アクティビティ (受講生が20名の場合)]

Part2は質問も選択肢もないので、読む必要がなく、リスニングが得意な受講生には得点源の箇所であったが、試験問題改定後は先に述べたように、かなり難易度が上がり、苦手意識をもつ受験生が多い。次のアクティビティは授業の最初にウォーミングアップ用として考えたものである。

- ① 質問文とそれに対する正しい応答文を10枚ずつ準備し、受講生に1枚ずつ引かせる。

- ② 自分の引いた問題文、応答文のマッチングする内容の文を探す。その間は教室を自由に移動して、英語でコミュニケーションをとる。
- ③ 正しいと思うマッチングができたペアは一緒にその場に座る。
- ④ ほぼマッチングが終わったら、各ペアが問題文、応答文を読み上げ、受講生全員が正しいかどうかを判断する。

ただ単に聞く、読むだけではなく、体を動かして、英語でコミュニケーションを取りながらなので、記憶に残りやすい。受講生は日常、当然のことながら主に日本語で生活をしているので、授業の最初は日本語モードから英語モードに切り替えるアクティビティを導入することで、授業に臨みやすくなる。

[スクリプトの活用]

スクリプトを使って作ったワークシート活動を次に紹介したい。表4、表5はTOEICテスト公式問題集新形式問題対応編サンプル問題のスクリプトから作成した (Educational Testing Service, 2016, p.13,15,17)。

表4 Part 1, 2, 3スクリプトを使ったワークシートについて

<p>PART 1</p> <p>1. (A) He's () some soil. (B) He's moving a wheelbarrow. (C) He's cutting some grass. (D) He's planting a tree.</p> <p>PART 2</p> <p>2. () does Thomas play the violin? (A) Sure, I really like it. (B) Oh, he's (). (C) I'll turn down the volume.</p>	<p>PART 3</p> <p>M1: Have you two taken a look at the progress they've made upstairs on ()? It looks great!</p> <p>W: ()! I can't believe it! And the offices up there have amazing views of the city.</p> <p>M2: I wonder which division will move up there when it's finished.</p> <p>W: I heard it's the research department.</p> <p>M1: Ah, because they have the most people.</p> <p>W: Yeah. Well, the company () if they're adding that space!</p> <p>M: I think you're (), there!</p>
--	--

表5 Part 4 スクリプトを使ったワークシートについて

PART 4

We're happy to see you all/ at this seminar this afternoon/—we have a lot of useful
みなさんとお会いできて嬉しいです/本日の午後セミナーで/ たくさんの役立つ情報を
information to cover.// But before we start,/ a few administrative details.//
扱います// しかし、始める前に/いくつか運営上の詳細をお伝えします//
There will be one break,/ half way through the afternoon.
休憩は一回あります/ 午後に半分過ぎた時点で//
You can leave your laptops here/if you leave the room/—
ノートパソコンをここに置いておくことができます/もし部屋を離れる場合/
there will always be someone in here/—but do keep your money and phones or…ah…other
ここには常に誰かいます/ しかし、必ずお金や電話、あるいは
small electronic devices with you.// Don't leave them at the tables.//
小型電子機器を機器を携帯してください//それらをテーブルに置かないでください//
And please note that/ there's error in your printed program/: there will be a change/—
またご注意ください/印刷されたプリントに1つ誤りがあります/変更がございます/
—a switch/—in times for the last two presenters.//
入れ替えです/最後の二人の発表者の時間に//
Ms. Ohta has to leave a little early today.//
Ohtaさんは本日、少し早目に退出しなければなりません//

表4の手順は次の通りである。

- ① Part1からPart3まで（ ）内に聞き取った英語を書いていく。Part1は単語1語、Part2,3は2語以上で、（ ）内に入る英語は問題に対する答えの判断の決め手となる。
- ② Part1とPart2では座席が隣、前後の人と答えを比べ、内容をお互いに確認した後で、ボランティアの学生が答えを言い、クラス全体で答え合わせをする。
- ③ 各自音読、リズム、イントネーションに気をつけて、CDの音声と一緒に読むオーバーラッピングをする。
- ④ スクリプトを見ないで、CDの後に影のように追ってリピートするシャドーイングをする。
- ⑤ Part3では（ ）内を3人一組のグループで答えをチェックし、クラス

全体での解答、解説の後、グループでロールプレイをする。この時、スクリプトを一度少し見て、今度は相手の顔を見てセリフを言う。

次に表5のPart4の進め方について述べたい。

- ① リスニングの解答する前に、英文のスクリプトを渡し、読ませ、答えを探させることでリーディング練習となる。
- ② ペアで答え合わせ、内容について確認し合った後、クラス全体で答え合わせをし、解説する。
- ③ 十分に内容を理解した後で、各自音読、最高速音読に挑戦し、速く読めるようになってから、CDの後にオーバーラッピングをする。
- ④ ペアになって、じゃんけんで勝った人が、英語を読み、負けた人が英文を見ないでパートナーの声を聞いてリピートする。終わったら、役割交代をする。
- ⑤ パートナーをかえて、ペアになって本文の半分ずつを日本語から英語に直す通訳練習をする。これもじゃんけんをして、勝った人が前半日本語を言い、負けた人が英語に直す。

リスニング力をつけるにはリスニング問題を解いて、解答、解説を読むだけでは不十分で、聞いた後に必ずスクリプトを読み、わからない単語、文をチェックする必要がある。十分、文構造も内容も理解した上で音読をすることは効果的で、音読の速度をあげることで、黙読の速度も速くなる。この後、リズム、イントネーションもまねながらオーバーラッピングすると自然な速さで読めるようになる。オーバーラッピングに対して受講者は最初、CDと一緒に読むのは難しいが、だんだんと慣れてくると楽しいと言っている。ナチュラルスピードで音読することで、自分もネイティブのようになったような気がして嬉しいとのコメントもあった。シャドーイングは英語に苦手意識のある受講生には難しいので、無理をしないようにと言っている。完璧を目指さず、自分が言える部分だけでよいし、自分の声が邪魔になって聞こえないという受講生には声を出さなくてもよいと伝えている。自分で正しく発音できない音は聞き取れない音なので、授業では「口のまわりの筋肉トレーニング」と称し、受講生が声を

出すことに重点を置いて指導している。

また、リスニングの授業での日本語から英語への通訳練習は受講生には新鮮なようで、英語を発信する力を育てるこの活動は人気がある。ペアで行うので、そんなに恥ずかしくなく、スピーキングに対して前向きな態度で臨めるようだ。通訳練習用の英文そのものは難しいものではないが、英語に自信がある受講生でも手応えがある活動と感じているようだ。

5. おわりに

TOEICを教えるのではなく、TOEICで教える指導案を考えることで、授業の内容が膨らみ、学生にとっても興味深いものになる。TOEICは社会に出てからも様々な場面で、スコアを要求されることがあり、大学で英語の勉強の仕方を学び、英語の基礎を身につけ、生涯にわたり英語学習を続けていけるようになることを願っている。先に述べたようにTOEICは4か国の英語で出題されているので、受講生の多くが馴染みのあるアメリカ英語とは異なるイギリス英語の発音、語彙が受講生たちには興味深いようである。またオーストラリア英語を初めて聞くという受講生も多い。カナダ英語はどうアメリカ英語と違うのかなど興味をもつ受講生もいる。世界中でEnglishes が話されている現在、多様な英語にふれることは視野を広げてくれる。そしてそこに住む人々や文化、歴史に興味をもつきっかけになり得る。受講生がこれから生きていくグローバルな社会で、自分とは異なる文化的背景をもつ人々と英語で意思の疎通を図り、お互いに理解し尊重し合える関係を築いていって欲しいと思う。TOEICリスニング問題を通して、受講生が学べることはたくさんあり、今後もアクティブな活動を工夫し、より効果的な授業を行っていきたいと考えている。

参考文献

- Edgar Dale(1946) Dale's cone of Experience, <https://u.osu.edu/eheedtech/2016/12/01/edgar-dale-media-center/>(参照2019-01-02)
- 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会(2018)「2017年度 TOEIC® Program総受験者数は約270万人」, <https://www.iibc-global.org/>

- iibc/press/2018/p092.html(参照2019-01-02)
- 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会(2013)「上場企業における英語活用実態調査」, http://www.iibc-global.org/library/redirect_only/library/toeic_data/toeic/pdf/data/katsuyo_2013.pdf(参照2019-01-02)
- 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会(2018)「TOEIC® Programの理念—TOEIC® Programの歴史」, https://www.iibc-global.org/toeic/toeic_program/philosophy.html(参照2019-01-02)
- 仲川浩世(2013)「TOEIC授業における補助言語活動」, 関西外国語大学研究論集, 第97号, 253-266
- 本名信行(2003)『世界の英語を歩く』, 集英社
- 文部科学省(2013)「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」, 2013-12-13, http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2014/01/31/1343704_01.pdf(参照2018-12-30)
- 文部科学省(2014)「英語教育の在り方に関する有識者会議報告(概要)」, 2014-7, http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2014/08/20/1351000_01.pdf(参照2018-12-30)
- 文部科学省中央教育審議会(2012)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」, 2012-8-27, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm(参照2018-12-30)

引用文献

- Educational Testing Service(2016)『TOEICテスト公式問題集新形式問題対応編』一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会